（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

No.(1)

2019 年度　（平成 31 年度）　学校評価自己評価表

済美　中学校区	校番　16	福山市立　津之郷小　学校

最終更新日	2019年(平成31年)　4月1日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビ ジ ョ ン　「福山１００NEN教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

○かかわり合いを大切にしながら，こども同士がつながる教育活動の推進

○地域へのボランティア活動などを通して，自己肯定感を高め，地域貢献できる人材の育成

児童生徒の現状

○基礎的・基本的な学力はおおむね定着しているが，それらを活用した思考力や表現力，またねばり強く問題に取り組む姿勢には課題がある。
○校区一体となったあいさつや無言清掃等の取組を通して，児童生徒の集団への意識が高まっている。また集団を牽引するリーダーも育ってきている。

育成する力 (21世紀型“スキル＆倫理観”)	○　課題発見・解決力　　○　コミュニケーション力 ○　他者とかかわり合う力
めざす子ども像	①自らの目標に向かって努力し，チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感的人間関係をきずき，共によりよく生きようとしている。
中学校区として統一した取組等	○社会に開かれた教育課程「校区カリキュラムマップ」の実現 ○「主体的，対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会，生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成

Ⅲ　自　校

ミッション

自信と誇りに満ちた学校文化の創造

―　学校・家庭・地域が連携し児童の可能性を最大限に伸ばす　―

学校教育目標

豊かな心を持ち，主体的な実践力のある子どもを育てる

～　すすんで学ぶ子　心豊かな子　たくましい子　～

現　状

〈児童生徒〉

○まじめに課題に取り組み，学習への意欲も高い。筋道を立てて，物事を考えることや説明するための思考力や表現力には課題がみられる。
○素直で思いやりのある児童が多い。人とのかかわりや自分の気持ちを言葉で伝えることを苦手とする児童が多くみられ，他者とよりよい人間関係をきずいたり，自己肯定感を高めたりすることが課題である。

〈授業〉

○子ども主体の授業づくりにに向けて発問の工夫を行ってきた。子ども自らが問いをもち，単元の見通しをもつことが課題である。
○落ち着いた学習環境をつくっているが，子ども同士が考えを出し合い，練り合いながら，豊かに表現することには課題がある。

育成する力 (21世紀型“スキル＆倫理観”)			○課題発見・解決力	○コミュニケーション力	○他者とかかわり合う力
めざす子ども像	小学校	1・2年	「なぜ・どうして？」「（だから，もっと）こうしたい！」という思いや考えを持ち，ことばにすることができる。＝「振り返る⇒表現する」	自分の周りの人の考えを（目線を合わせて，うなずきながら）聴く（「へえ～・ほお～・なるほど・すごいね！」等）ことができる。	自分の周りの人の思いや，そう思う理由に耳を傾け，寄り添ったり（「そうか・そうなんだね」）励ましたり（「いっしょに～しよう」）することができる。
		3・4年	「なぜ・どうして？」「（だから，もっと）こうしたい・こうすれば・こうしよう！」という思いや考えをことばにしながら，行動することができる。＝「振り返る⇒気付く」	自分の周りの人の考えを，自分の考えと比べたり関係付けたりしながら聴き，整理し直して（主・述語，結論⇒根拠を明確に）はっきり伝えることができる。	相手の状況やその時の思いを自分に置き換えて想像し，共通・相違点を見出しながら，優しいことばや態度で接したり，時には我慢したりすることができる。
		5・6年	行動して気付いたことや考えたことなどを振り返り，次の（新たな）目標や課題を見出し，次の行動につなげることができる。＝「振り返る⇒見出す」	自分の考えを，他者に分かりやすく（例え話の挿入，図表や絵・写真・ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞの活用，話し方や声のﾎﾞﾘｭｰﾑ・ﾄｰﾝの工夫など）伝え，理解・納得を得ることができる。	多様な人たちと接する中で，それぞれの良さを見出しちがいを受け入れながら，支え合ったり，助け合ったりすることができる。
	中学校	1年			
		2年	行動して気付いたことや考えたことなどを振り返り，見出した次の（新たな）目標や課題を，見通しを立て（他者を巻き込み）情報を収集・整理・活用しながら解決・達成していくことができる。＝「振り返る⇒見通す（巻き込む）」	自分の考えを他者に分かりやすく伝えながら，質問（反論・同意）・説得・納得等を繰り返し，考えを広げ深めるとともに，まとめる（合意形成を図る）ことができる。	集団（地域，学校・学年・学級等）活動における自らの役割とその目的・価値を見出し，他者とよりよくかかわりながら，責任を果たしたり，貢献したりすることができる。
		3年			

研究	教科等	○ 道徳　　○家庭科
	主題・内容等	自ら考え　ともによりよい解決を図ろうとする児童の育成 ～問いの生まれる授業づくりを通して～
めざす授業の姿		○自ら課題を見つけ，多面的・多角的に考えながら，主体的に解決している。 ○友だちの考えをじっくり聞きながら，自分の考えを場面や目的に応じて豊かに表現している。 ○多様な考えを受け入れ，友だちとともによりよい解決を図ろうとしている。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　津之郷小　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
１	課題発見・解決力の育成とコミュニケーション力向上	★	新規	・主体的・対話的で深い学びのある授業づくり。	・問いの生まれる授業づくりに向けて，工夫改善を進める。	・職員アンケート，児童アンケート肯定的評価８５％以上 ・国語，算数，理科の単元末テスト85%以上									
２	豊かな心の育成	★	継続	・他者とかかわり合いながら共によりよく生きようとする児童の育成。	・道徳の授業づくりを工夫改善し，個々の成長を見取る。 ・児童生徒会活動（縦割り班活動）の活性化を図る。	・道徳的価値について自分を振り返って考えられる児童８５％ ・児童生徒による主体的な活動（学期に１回以上）									
２	たくましい体の育成		継続	・自己課題を設定し，継続して取り組める児童の育成。	・運動課題を設定し，継続して取り組む。 ・健全な体をつくるための食育に取り組む。	・自己課題に取り組む児童８５％以上 ・給食を完食する児童８５％以上									
１	信頼される学校づくりの推進		新規	・働き方改革を進めながら，保護者や地域とのつながりを深める。	・地域と連携した活動を取り入れ，校区の取組も地域に発信する。 ・子どもと笑顔で向き合うための時間を，計画的・効率的に生み出す。	・地域と連携した活動を年間６回以上 ・「学校は楽しい」とこたえる児童８５％以上 ・時間外勤務月40時間を超える月を6月以内にする。									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。